



奥村土牛《兔》1936(昭和11)年 紙本・彩色 山種美術館蔵

第 123 期

2021年4月1日～2021年9月30日

中間株主通信

株式会社ヤマタネ

証券コード：9305

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに第123期上半期（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の株主通信をお届けするにあたり、決算概況等につきましてご報告申し上げます。

## 1 第123期（2022年3月期）上半期実績と通期見通しについて

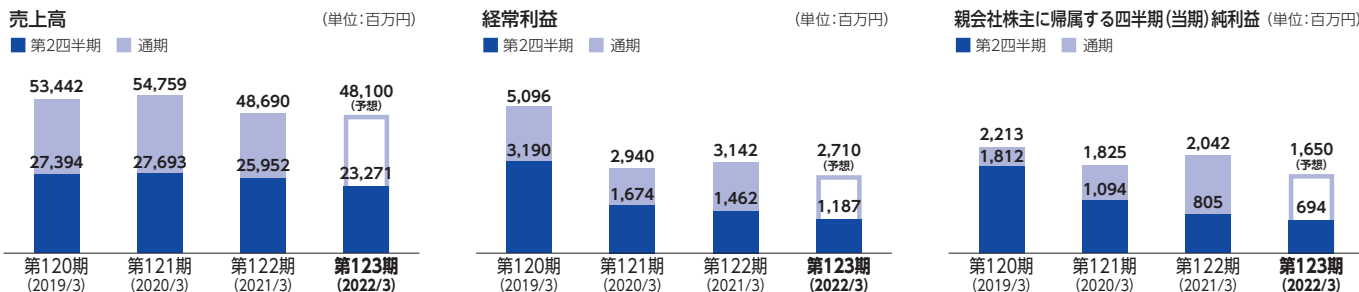
第123期上半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、企業活動の制限や個人消費の低迷など経済活動の停滞が続き、依然として厳しい状況となりました。ワクチン接種等の感染対策の効果や海外経済の改善により景気の持ち直しの動きはみられるものの、感染再拡大による景気の下振れリスクも残っており、新型コロナウイルス感染症の収束ははまだ見通せない先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下におきまして、当社グループの経営成績は、新型コロナウイルス感染症により食品部門での販売落ち込みや物流部門での国内業務の荷動き低調等の影響を受け、前年同期を下回ることとなりましたが、物流部門での国際業務が回復基調であることや物流不動産の稼働率向上等により業績予想は上回ることとなりました。

この結果、売上高は232億71百万円（※前年同四半期は259億52百万円）となり、営業利益は13億48百万円（前年同期比15.1%減）、経常利益は11億87百万円（同18.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億94百万円（同13.8%減）となりました。

第123期下半期につきましては、わが国における足許の新型コロナウイルス感染者数はワクチン接種等の感染対策の効果により

## 連結業績ハイライト



減少しておりますが、世界的に見ると感染再拡大による都市のロックダウン等を余儀なくされている国も存在するなどいまだ収束が見えない状況が続いております。今後、年末年始を迎え、人流の増加等による感染再拡大の可能性もあり、引き続き、先行き不透明な状況が続くと見込んでおります。

このような状況下ではありますが、2022年3月期の連結業績予想につきましては、当初予想通り、売上高481億円（※前年同期は486億900万円）、営業利益は30億円（同33億200万円）、経常利益は27億100万円（同31億4200万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は16億500万円（同20億4200万円）としております。収益認識会計基準の売上高減少要因を除けば実質増収となり、利益面でも新設物件の減価償却費増を主因に減益となるもののEBITDAは前期比プラスとなる見込みです。

※今年度より「収益認識に関する会計基準」を適用しており、業績予想については、対前期増減率は記載せず説明しております。

## 2 新市場区分「プライム市場」を選択

当社は、2021年7月9日付けで株式会社東京証券取引所より、「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果について」を受領し、「プライム市場」の上場基準に適合していることを確認いたしました。この結果を踏まえて、2022年4月4日の市場移行に向けて、所定の手続きを進めてまいります。

「プライム市場」を選択する企業として、今後もガバナンスを深化させ、持続的な成長と企業価値向上に向けて一層の取組み強化を図ってまいります。

## 3 第123期（2022年3月期）上半期サステナビリティに関する取組みについて

当社グループは、「信は万事の本を為す」の企業理念と「続く」を支える。”のコーポレートメッセージの考え方を基本とし実践していくことで持続可能な社会への貢献とともに持続的な企業価値の向上を目指すべく、今年度5月にサステナビリティ方針の制定および取組み重要テーマ（マテリアリティ）の特定を行いました。

現在、世界的にも環境面においてはとりわけ、気候変動が喫緊の課題となっており、主な原因である温室効果ガスを減らすカーボンニュートラルを目指す動きが加速している中、今年度10月に、当社は所有する関東6拠点の購入電力を100%再生可能エネルギーに切り替えをいたしました。この切り替えに伴い、年間2,400トン相当のCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでおります。また、来年度以降には、再生可能エネルギー化する拠点を更に拡大していくことに加え、所有する倉庫や工場の屋根を活用したPPAモデルによる太陽光パネル設置などの検討を進めております。

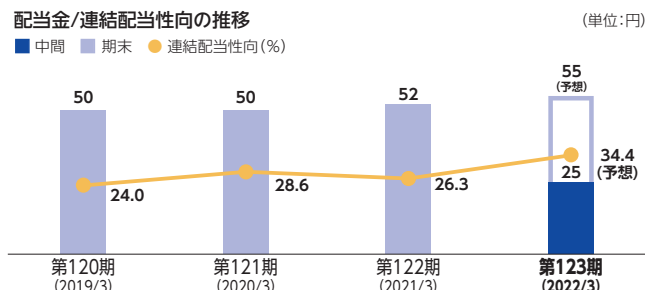
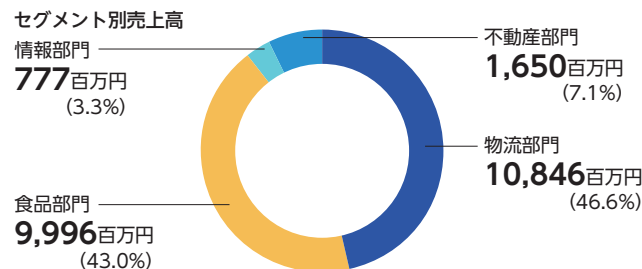
今後ともサステナブルな社会の実現に向け、各種、積極的な取組みを行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

代表取締役社長

山崎元裕

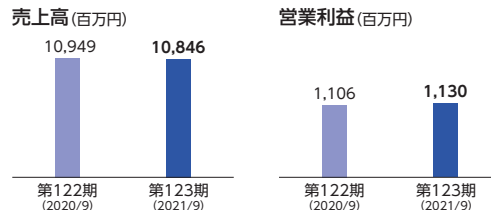


安定配当の基本方針を維持しながら株主の皆様への利益還元を強化するため「累進配当」を行うことといたしました。

## 物流部門

■ 売上高 10,846百万円 ■ 営業利益 1,130百万円

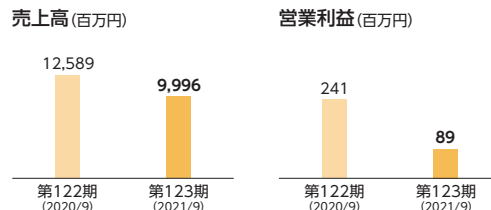
物流部門は、海外引越を中心とした国際業務では企業の海外赴任再開の動きが見られたことや運賃高騰の影響等により増収となりましたが、国内業務においては、たび重なる緊急事態宣言の延長により業務用飲料等の荷動きが低水準となり、第1四半期まで堅調であった巣ごもり需要が落ち着いてきたことにより食品や家電製品等の荷動きも減少傾向となりました。この結果、売上高は108億46百万円(前年同四半期は109億49百万円)となり、営業利益は物流不動産の稼働率向上やコスト削減等もあり、11億30百万円(前年同期比2.1%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2億87百万円減少しております。



## 食品部門

■ 売上高 9,996百万円 ■ 営業利益 89百万円

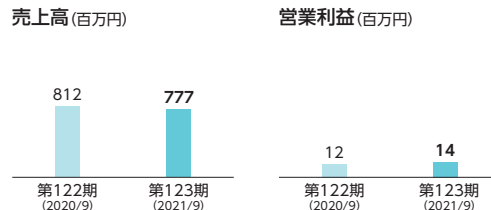
食品部門は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、外食業界での営業自粛や在宅勤務の定着化等が続き、外食事業者や給食事業者の需要が大きく落ち込み、これに伴う販売競争の激化も加わり、量販・外食向けである精米販売は26千玄米トン(前年同期比25.9%減)、玄米販売は米価の下げ止まり傾向を受けて、他卸売業者や一般販売店が積極的に調達を行ったことで、12千玄米トン(同50.7%増)となり、総販売数量は38千玄米トン(同11.1%減)となりました。この結果、売上高は99億96百万円(前年同四半期は125億89百万円)、営業利益は売上減少要因と精米販売の価格競争激化による差益率の低下等により89百万円(前年同期比63.1%減)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2億98百万円減少しております。



## 情報部門

■ 売上高 777百万円 ■ 営業利益 14百万円

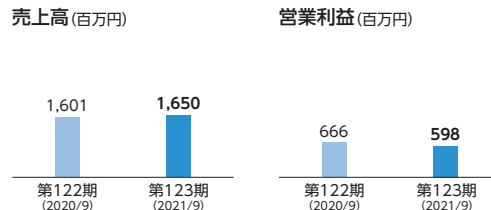
情報部門は、常駐型ビジネスの要員構成変更や新型コロナウイルス感染症拡大の影響による棚卸用機器レンタル事業の一部顧客における棚卸の延期や中止があったこと等により、売上高は7億77百万円(前年同四半期は8億12百万円)となりました。また、営業利益はグループシステム基盤構築のシステム投資による費用計上がありました。販売管理費の計上戻入があり14百万円(前年同期比14.2%増)となりました。



## 不動産部門

■ 売上高 1,650百万円 ■ 営業利益 598百万円

不動産部門は、開発中でありました「KABUTO ONE」が8月に満室状態での開業となり、昨年12月に開業した「ヤマタネ五反野ビル」も寄与したこと等により、売上高は16億50百万円(前年同四半期は16億1百万円)となり、営業利益は「KABUTO ONE」の初期費用等の影響により5億98百万円(前年同期比10.2%減)となりましたが、第3四半期以降「KABUTO ONE」の業績へのプラス影響が発生する見込みです。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は1億10百万円減少しております。



## 「KABUTO ONE」開業のお知らせ

当社のグループ会社である山種不動産株式会社が、中央区日本橋兜町7番にて平和不動産株式会社及びちばぎん証券株式会社と進めていた共同開発事業「KABUTO ONE」が、今年8月に開業いたしました。

同ビルは大規模複合用途ビルで、永代通りと平成通りの交差点に面するアトリウムは、高さ約14m、3層吹き抜けガラス張りの開放的空間を最大限活かし、世界最大規模の大型LEDディスプレイ「The HEART」を設置。イベント等を通じて賑わい・憩い・交流の拠点となる場としても機能します。1階には飲食店舗がオープンし、貫通通路や歩道状空地などのオープンスペースを整備して歩行者回遊性の向上と賑わい創出に寄与します。地上3・4階には投資家と企業の対話交流拠点となるカンファレンス、ライブラリー・ラウンジが設けられ、6～15階のオフィスフロアは、茅場町駅エリア最大級の大型オフィスであり、中間層免震構造の導入や非常用発電機の設置によって安全・安心な執務環境を提供します。また、地下接続通路（2022年12月開通予定）は東京メトロ東西線・日比谷線「茅場町」駅に直結いたします。

同ビルは、金融関連の情報発信や人材育成、投資家と企業の対話・交流促進を図ることで「国際金融都市・東京」構想の実現に寄与するとともに、地域全体の更なる発展、魅力の向上に貢献してまいります。



▲外観

### 施設概要

所在地	東京都中央区日本橋兜町7番1号（住居表示）
アクセス	東京メトロ東西線・日比谷線「茅場町」駅直結 ※2022年12月接続通路開通予定
竣工	2021年8月24日（建物地上部分および駐車場）
階数	地上15階、地下2階、搭屋2階
主要用途	事務所、店舗、集会場、貸会議室、駐車場
延床面積	約39,208㎡（約11,860坪）
構造	地上S造、地下SRC造（一部S造）中間層免震構造

## ヤマタネグループのサステナビリティ経営

ヤマタネグループとは何かを改めて認識し、ステークホルダーの皆様には私たちの「想い」や「あり方」を伝える“言葉”としてコーポレートメッセージ“「続く」を支える。”を2019年に策定しました。ヤマタネグループでは創業以来、「信は万事の本を為す」に則り、社業を通じて豊かな社会の実現に貢献することを企業理念としてまいりました。この企業理念をもとに為すべきことは、ステークホルダーの皆様「続く」を支えること。すなわちサステナブルな社会の実現に寄与することです。“「続く」を支える。”をヤマタネグループとして更に推進していくため、今年度5月に「サステナビリティ方針」を制定しました。

### サステナビリティ方針

ヤマタネグループは「信は万事の本を為す」に則り、社業を通じて豊かな社会の実現に貢献することを企業理念としております。また、コーポレートメッセージとして“「続く」を支える。”を掲げており、パートナー企業として信頼の絆を深め、お客様と社会と共にまっすぐ歩み続け、顧客、株主、社員など全てのステークホルダーの「続く」を支えていくことがヤマタネグループの存在意義と考えております。

この企業理念とコーポレートメッセージの考え方を基本とし、実践していくことで、持続可能な社会への貢献とともに持続的な企業価値の向上を目指します。

#### 【行動指針】

- ① 長期ビジョンを掲げ、その達成のために「環境」「社会」「経済」の持続可能性の側面から課題を抽出し、事業を通じてその解決に取り組めます
- ② 攻めと守りのガバナンス強化と多様な人材の活躍推進のため組織基盤の整備に取り組めます
- ③ 適正な情報開示を行い、ステークホルダーの皆様と積極的な対話を行います
- ④ パートナーシップを強固にし、バリューチェーン全体を通して持続可能な社会の実現に取り組めます

## 取組み重点テーマ

### E:環境

#### 環境に配慮した事業活動の推進



- 温室効果ガス排出量削減
- エネルギー使用量の削減
- 廃棄物及び有害物質の管理

### S:社会

#### 製品・サービスの品質向上



- 安全安心な商品・サービスの提供
- 個人情報保護及び高度なデータセキュリティ
- 安全衛生の推進
- リスクマネジメント

### S:社会

#### 人財の多様性と活躍の促進



- 生産性向上による働き方改革
- 人財育成及び教育
- 女性活躍を含む多様な人財の活躍推進
- 差別防止及び社会的弱者への配慮

### S:社会

#### 地域コミュニティ及び生産地と農業の発展



- コミュニティへの参画及び発展への寄与

### S:社会

#### 持続可能なコメの調達の推進



- 持続可能な材料調達と効率的な使用

### G:ガバナンス

#### コーポレート・ガバナンスの深化 (健全性の確保・効率化の追求・ 透明性の向上・再現性の堅持)



- リスクマネジメント
- 適正な情報開示

## 環境

### 環境に配慮した事業活動の推進



### 関東6拠点 使用電力を 100%再生可能エネルギー電力へ

今年度10月に、当社は所有する関東6拠点の購入電力を100%再生可能エネルギーに切り替えをいたしました。

この切り替えに伴い、年間約6GWhの使用電力を100%再生可能エネルギー化することにより、年間約2,400トン相当のCO<sub>2</sub>排出量削減が見込まれます。本件は当社グループのサステナビリティ経営における取組み重点テーマ『環境に配慮した事業活動の推進』の一環であり、マテリアリ

ティの1つである『温室効果ガス排出量削減』を目指すものです。今後も再生可能エネルギー電力への切り替え範囲を拡大し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

#### 対象拠点

- (1) 深川営業所 (東京都江東区)
- (2) 鶴見営業所 (神奈川県横浜市鶴見区) ※自社運営倉庫のみ
- (3) 大黒埠頭営業所 (神奈川県横浜市鶴見区) ※自社所有倉庫のみ
- (4) 安善営業所 (神奈川県横浜市鶴見区)
- (5) 舞浜営業所 (千葉県浦安市)
- (6) 立川アーカイブズセンター (東京都立川市)

開館55周年記念特別展

# 奥村土牛 ー山崎種二が愛した日本画の巨匠 第2弾ー

山種美術館では、開館55周年を記念し、当館がその代表作を多数所蔵している日本画家・奥村土牛(1889-1990)の展覧会を開催します。本展では、瀬戸内海の鳴門の渦潮を描いた《鳴門》や、古径を偲んで制作した《浄心》、《醍醐》などの代表作をはじめ、活躍の場であった院展の出品作を中心に、

土牛の画業をたどります。初期から晩年まで画業へ専心した土牛100年の足跡をたどり、近代・現代を代表する日本画家として、今なお人々から愛されている土牛芸術の魅力を味わっていただければ幸いです。

**会 期** 2021年11月13日(土)～2022年1月23日(日)

**会 場** 山種美術館

**主 催** 山種美術館、日本経済新聞社

**開 館 時 間** 10時～17時

(入館は閉館時間の30分前まで)

※今後の状況により会期・開館時間等に変更する場合がございます。

**休 館 日** 月曜日 [12/27(月)、1/3(月)、1/10(月・祝)は開館、  
1/11(火)は休館、12/29～1/2は年末年始休館]

**入 館 料** 一般1,300円、大学生・高校生1,000円、中学生以下無料  
(付添者の同伴が必要です)  
入館日時のオンライン予約ができます  
(詳細は山種美術館HPをご覧ください)。

**お問い合わせ** 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

**U R L** <https://www.yamatane-museum.jp/>

## 今後の展覧会

- 開館55周年記念特別展  
上村松園・松篁  
ー美人画と花鳥画の世界ー  
2022年2月5日(土)～4月17日(日)

詳細は山種美術館HPをご覧ください

## ●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	(インターネット ホームページURL)	<a href="https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/">https://www.smtb.jp/ personal/procedure/agency/</a>
定時株主総会	毎年6月開催	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日	(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	公告の方法	当社のホームページに掲載する。 <a href="https://www.yamatane.co.jp/">https://www.yamatane.co.jp/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して公告する。
		(電話照会先)	☎ 0120-782-031	上場証券取引所	東京証券取引所

### 株式に関する住所変更等のお手続きおよびご照会について

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。  
証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。

### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。